

## 「クレジットカード取引の安心・安全に関する世論調査」の概要

平成 28 年 9 月 1 日に内閣府政府広報室が公表した「クレジットカード取引の安心・安全に関する世論調査」の概要によると、クレジットカードを積極的に利用したいと思わない人は全体の 6 割近くを占め、その理由（複数回答）は「紛失・盗難により、第三者に使用されるおそれがあるから」（41.3%）、「個人情報などがクレジットカード会社や利用した店舗などから漏えいし、不正使用されてしまう懸念があるから」（35.4%）等セキュリティ対策に不安が強いことがわかりました。

### 1. 調査の概要

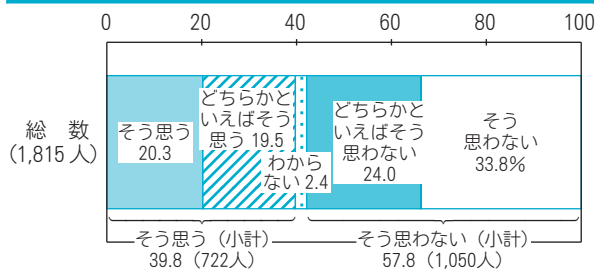
「クレジットカード取引の安心・安全に関する世論調査」は、クレジットカード取引に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とするために平成 28 年 7 月に調査が行われ、有効回収数 1,815 人（有効回収率 60.5%）となっています。

### 2. クレジットカードの利用意向

クレジットカードを積極的に利用したいと思うかとの問いには、「そう思う」（20.3%）、「どちらかといえばそう思う」（19.5%）と肯定的な人は 4 割程度にとどまり、「そう思わない」（33.8%）、「どちらかといえばそう思わない」（24.0%）を合わせると 6 割近い人が否定的な考えと言えます。

（図表 1）

図表 1 クレジットカードを積極的に利用したいと思うか（単位：%）

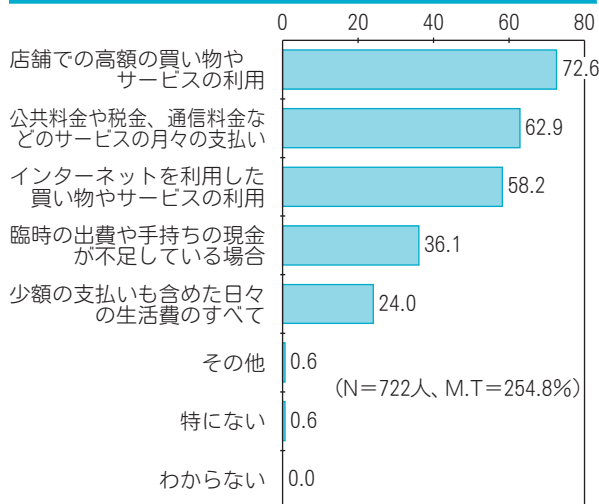


出典は全て、内閣府政府広報室「クレジットカード取引の安心・安全に関する世論調査」の概要（平成 28 年 9 月公表）より

クレジットカード利用に関し肯定派の 722 人のうちで、どのような場面でクレジットカードを利用したいと思うかの問いには、複数回答で「店舗での高額の買い物やサービスの利用」（72.6%）、「公共料金や税金、通信料金などのサービスの月々の支払い」（62.9%）、「インターネットを利用した買い物やサービスの利用」（58.2%）、「臨時の出費や手持ちの現金が不足している場合」（36.1%）、「少額の支払いも含めた日々の生活費のすべて」（24.0%）

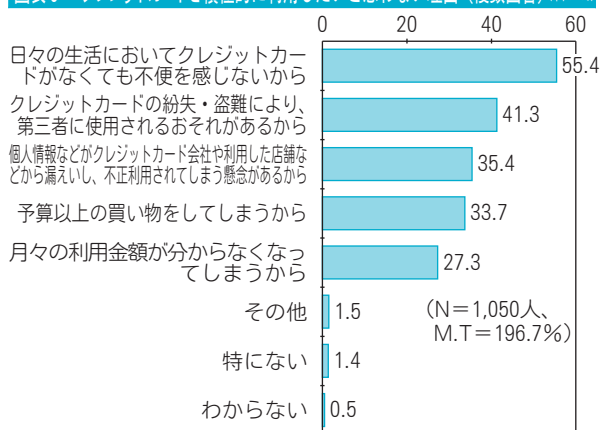
の支払」（62.9%）、「インターネットを利用した買い物やサービスの利用」（58.2%）の答えが多くを占めています。これは、各種カードのポイント蓄積による特典の取得や、利便性をうたった PR 効果による結果と言えると思います。（図表 2）

図表 2 クレジットカードを利用したい場面（複数回答）（単位：%）



また、6 割近いクレジットカード利用の否定派の 1,050 人にクレジットカードを積極的に利用したいと思わない理由を問うたところ、複数回答で「クレジットカードがなくても不便を感じない」（55.4%）が最も多く、「クレジットカードの紛失・盗難により、第三者に使用されるおそれがあるから」（41.3%）、「個人情報などがクレジットカード会社や利用した店舗などから漏えいし、不正利用されてしまう懸念があるから」（35.4%）、などの不安が強いことがわかります。（図表 3）

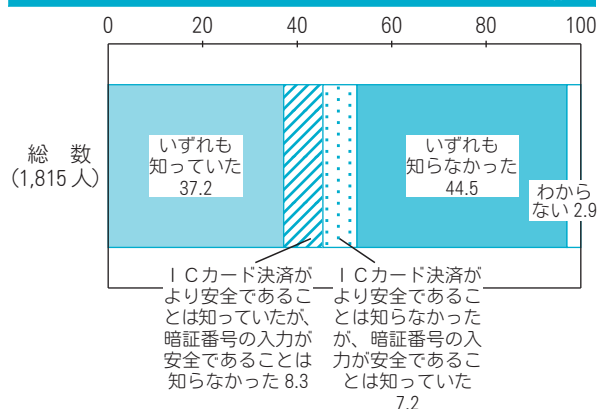
図表3 クレジットカードを積極的に利用したいと思わない理由（複数回答）（単位：％）



### 3. クレジットカードの安心・安全な利用

クレジットカードについて、磁気カード決済よりICカード決済の方が安全であることや、暗証番号の入力が安全であることを知っていたかを尋ねたところ、「いずれも知っていた」の37.2%に対し、「いずれも知らなかった」は44.5%となり、ICカード決済の安全性に対する認知度は低い結果となりました。（図表4）

図表4 ICカード決済や暗証番号の入力が安全であることの認知度（単位：％）



また、インターネットで買い物をする際にセキュリティ対策として個人用IDやパスワードを入力する方法があることを知っていたかとの問いには、「知らなかった」は35.2%であるものの、59.4%が「知っていた」と答えています。（図表掲載省略）

#### <参考>

クレジットカードの取引には「ICカード」による取引と「磁気カード」による磁気ストライプ取引があります。磁気ストライプ取引は、

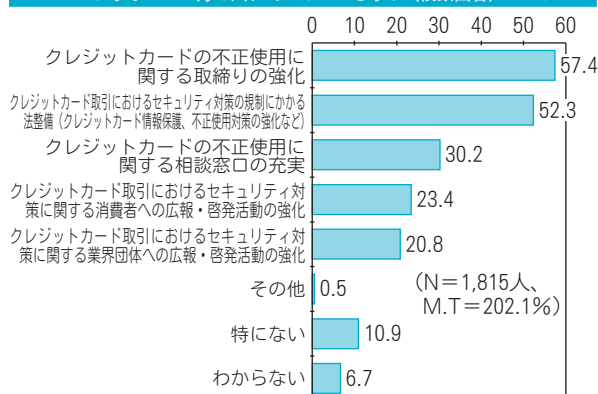
「磁気ストライプ」に記録したカード情報を読み取り決済処理をする取引です。

一方、IC取引は、「ICチップ」に暗号化して記録したカード情報を読み取り決済処理をする取引です。このため、磁気ストライプ取引のようにカード情報を盗み取るスキミング被害は発生しません。またIC取引では、伝票への「サイン（署名）」にかわり、本人しか知らない4ケタの「暗証番号」を入力する必要があります。

### 4. クレジットカードの安心・安全な利用のために力を入れてほしいこと

クレジットカードの安心・安全な利用のために、政府に今後どのようなことに力を入れてほしいと思うかとの問いには、「クレジットカードの不正使用に関する取締りの強化」(57.4%)、「クレジットカード取引におけるセキュリティ対策の規制にかかる法整備（クレジットカード情報保護、不正使用対策の強化など）」(52.3%)が多数を占めています。（複数回答）（図表5）

図表5 クレジットカードの安心・安全な利用のために、政府に今後どのようなことに力を入れてほしいと思うか（複数回答）（単位：％）



一般社団法人日本クレジット協会の調べによると、平成27年3月末のクレジットカード発行枚数は25,890万枚、成人人口比では1人当たり2.5枚の所有となるそうです。

クレジットカード取引の利便性はますます広がっている昨今、セキュリティ対策等安全性への信頼度が高まれば、利用者はまだまだ増えるものと考えられます。（高橋 香）